

今後の検討の進め方について（案）

- 社会実装を見据えて議論を進めていくに当たっては、インターオペラビリティ等の確保も念頭に置いて本研究会において議論を行い、その後実証実験等により検証していくことが必要。
（インターオペラビリティ等の確保での観点例）
 - ・ 異なるベンダー、事業者間での互換性
 - ・ 複数のシステムや仕組みの共存性
 - ・ 異なるNW間の接続性 等

- 6月目途での取りまとめに向けて、優先的に議論すべき事項を抽出して課題整理を進める体制を構築するため、今後、別紙のとおり、研究会での議論のたたき台となる資料をドラフトするアドホックの検討グループ（アドホック・タスク・グループ：ATG）を開催する。

- ATGでは、構成員等のプレゼンテーションまたは提案書等により提案されるユースケース（実証すべき内容）及び技術的課題の中から、検討の必要性の高いものを抽出し、整理検討のたたき台を作成する。
（検討事項例）
 - ・ 緊急モードへの切替方法（外部からの信号/手動）
 - ・ 情報発信者の識別方法（ID付与の対象、方法）
 - ・ 情報タイプの識別方法（メッセージタイプ、フラグ等） 等

- 研究会第2回会合以降、会合間にATGを開催（メールまたは実会合により開催）し、研究会各会合の資料をドラフトする。

【進め方イメージ】

研究会（第2回）	ATG提案
ATG	優先的検討課題を抽出し、資料をドラフト
研究会（第3回）	プレゼンテーション及び全般的議論
ATG	技術課題の整理検討を進め、資料をドラフト
研究会（第4回）	プレゼンテーション及び技術課題の議論
ATG	報告書案の記載事項の検討を進め、資料をドラフト
研究会（第5回）	報告書案の議論
ATG	必要に応じて開催
研究会（第6回）	報告書案の議論

アドホック・タスク・グループ(ATG)の開催について

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」(以下「研究会」という。)における検討を円滑かつ効率的に進めるため、今後、下記のとおり、研究会にアドホック・タスク・グループ(以下「ATG」という。)を開催する。

記

1. 検討事項

アドホック通信ネットワークに関する実証実験の実施を念頭に、その実施の前提となる以下の事項等を検討する。

- (1) ユースケースの検討及び各ユースケースの実現に必要な技術課題の抽出
- (2) 優先的に検討すべき技術課題の選別
- (3) 技術課題の解決方法の提案
- (4) その他、研究会からの付託事項

2. 構成及び運営

- (1) ATG は、研究会構成員のうちの希望者及び研究会主査が認める者で構成する。
- (2) ATG に座長を置き、座長は研究会主査が指名する。
- (3) ATG は電子メール等の手段により開催できるものとする。
- (4) その他、ATG の運営に必要な事項は座長が定めるところとする。

以上